



## 頻度的立場の確率


実際には、6 回サイコロを投げたときに、必ず 1 が 1 回出るわけではない

ref: スッキリわかる確率統計 p62~64

サイコロを何回も（膨大な回数を繰り返し）投げれば、やがて 1 が出る確率は  $\frac{1}{6}$  に近づいていく

一般的に述べると、 $n$  回中  $k$  回だけ 1 が出た場合の割合  $\frac{k}{n}$  は、 $n$  が大きくなるにつれて一定値  $\frac{1}{6}$  に近づいていく

確率に対するこのような考え方を**頻度的立場**という

 **頻度的立場による確率** 試行を  $n$  回繰り返して行った場合に、ある事象  $A$  の起こった回数を  $k(n)$  とする

試行回数  $n$  を増やしていくとき、割合  $\frac{k(n)}{n}$  が一定値  $p$  に近づくならば、 $p$  を事象  $A$  の起こる**確率**と定義する

$$P(A) = p = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{k(n)}{n}$$

このように定義される確率を**統計的確率**あるいは**経験的確率**という

この立場の客観性を保証するものは、多数回の試行あるいは大量データによる結果であり、理論的な根拠になっているものは**大数の法則**である